

用語解説

ア行

●一部事務組合

複数の地方公共団体がその事務の一部を共同して処理するために設ける特別地方公共団体の一種。

西知多医療厚生組合は、東海市及び知多市を構成市とする一部事務組合で、し尿処理事業、病院事業、看護専門学校事業及びごみ処理施設建設事業を共同処理している。

●一般廃棄物

廃棄物処理法で定められた産業廃棄物以外の廃棄物のこと。

主に、一般家庭の日常生活に伴って生じる「家庭系ごみ」、事業活動に伴って生じる「事業系ごみ」に分けられ、その他に生活排水の「し尿」等が含まれる。

カ行

●家庭系ごみ

一般家庭の日常生活から発生する廃棄物のこと。

廃棄物の種類によって、可燃ごみ、不燃ごみ、粗大ごみ及び資源に分類される。

●環境学習

地球環境の保全、公害の防止、自然環境の保護等の環境保全についての理解を深めるために行われる学習や教育のこと。

ごみ処理に関する分野では、ごみ処理施設の見学、資源の分別講座等が挙げられる。

●協働

異なる主体が何らかの目標を共有し、ともに力を合わせ活動すること。

ごみ処理に関しては、市民（家庭・地域）、事業者、行政を主体として、減量化や資源化という目標に向けて取り組むことが求められる。

●許可業者

廃棄物処理法に基づき、廃棄物の収集運搬許可を受けている事業者のこと。

●コークス

石炭を1,000℃以上の高温炉で乾留（蒸し焼き）して得られる固形の燃料のこと。黒灰色で金属光沢があり、細かい穴（孔）が多数存在する。

●ごみ焼却施設

ごみを焼却等の処理によって灰等にすることで、無害化、減容化等を行う施設のこと。

●ごみ処理基本計画

廃棄物処理法に基づき、地方公共団体が定める一般廃棄物処理に関する中長期計画である一般廃棄物処理基本計画のうち、主に家庭系ごみ及び事業系ごみを対象にした計画のこと。

●ごみ発電

ごみを焼却等の方法で処理する際に発生する熱エネルギーを用いて蒸気を発生させ、タービンを回して行う発電のこと。

化石燃料の使用削減につながることから、地球温暖化対策として注目されている。

サ行

●サーマルリサイクル

「熱回収（サーマルリサイクル）」を参照のこと。

●災害廃棄物

地震、台風等の災害時に発生する廃棄物のこと。

主に、地方公共団体に処理責任がある一般廃棄物に分類される。

●最終処分場

再利用、資源化又はエネルギー回収が困難なものを埋立処分する施設のこと。

埋め立てる廃棄物の種類及び性状によって、構造基準及び維持管理基準が定められている。

●再生利用（マテリアルリサイクル）

使用済み製品や生産工程から出る廃棄物や資源を回収し、利用しやすいように処理して、新しい製品の原材料として使用すること。

●産業廃棄物

事業活動に伴って生じる事業系ごみのうち、廃棄物処理法で定められた燃えがら、汚泥、廃油、廃酸、廃アルカリ、廃プラスチック等の20種類の廃棄物のこと。

大量に排出され、また、処理に特別な技術を要するものが多く、廃棄物処理法の排出者責任に基づき、その適正な処理が図られる必要がある。

●事業系ごみ

事業活動に伴って生じる廃棄物のこと。

廃棄物の種類によって、一般廃棄物及び産業廃棄物に分類される。

●集団回収

町内会・自治会、子ども会等の地域団体が中心となって、紙類、布類、缶類等の資源を集める方法のこと。

●循環型社会

廃棄物等の発生抑制、資源の循環的な利用、廃棄物の適正な処分等が確保されることによって、天然資源の消費を抑制され、環境への負荷ができる限り低減される社会のこと。

●循環型社会形成推進基本計画

循環型社会形成推進基本法に基づき、循環型社会の形成に関する施策の総合的かつ計画的な推進を図るため、国が定める計画のこと。

●焼却灰

可燃ごみを焼却処理した際に残った燃え殻のこと。

焼却時に発生する排ガスに含まれる焼却飛灰と区別して主灰ともいう。

●焼却飛灰【しょうきやくひばい】

可燃ごみを焼却処理した際に発生する排ガス中に含まれる灰、すす等の固体の粒子状物質のこと。

排ガス処理設備内の集じん機等で捕集し、有害物質の溶出防止のため、薬剤処理、セメント固化等の処理を行う。

●焼成処理

焼却灰、焼却飛灰等を砂状又はレンガ状に形成し、1,000℃程度で加熱処理する方法で、生成物は建設資材等として利用される。

●食品ロス

食べられる状態であるにもかかわらず廃棄される食品のこと。

主な発生要因は、小売店での売れ残りや期限切れ、製造過程で発生する規格外品、家庭や飲食店での食べ残しや食材の余り等である。

●ステーション方式

地域にあるごみ集積場所やごみ収集場所で、曜日や時間を定めて家庭系ごみを収集する方式のこと。

地方公共団体によって、収集できる廃棄物の種類、ステーションの数等に違いがある。

●ストックマネジメント

構造物や施設の機能診断に基づく機能保全対策の実施を通じて、既存施設の有効活用や長寿命化を図り、ライフサイクルコスト（LCC：生涯費用）を低減するための技術体系及び管理手法の総称のこと。

●スラグ

廃棄物や焼却灰をガス化溶融炉や灰溶融炉で溶融処理した際に生成される溶融固化物のうち、磁性を持たない固化物のこと。

生成されたスラグは、建設資材の原材料等として利用することができる。

●3R【すりーあーる】

「ごみを出さない」「一度使って不要になった製品や部品を再び使う」「出たごみはリサイクルする」という廃棄物処理やリサイクルの優先順位のこと。

「リデュース（Reduce：発生抑制）」「リユース（Reuse：再使用）」「リサイクル（Recycle：再資源化）」の頭文字を取ってこう呼ばれる。

近年では、3Rに「リフューズ（Refuse：ごみになるものを買わない）」や「リペア（Repair：修理して使う）」を加える場合もある。

●総合計画

地方公共団体の行政運営の総合的な指針となる計画のこと。

地方公共団体のあらゆる計画の基本となり、長期展望をもつ計画的かつ効率的な行政運営の指針が盛り込まれる。

●粗大ごみ処理施設

粗大ごみ及び不燃ごみを破碎処理し、金属等の資源、焼却可能な可燃性の残さ等に選別する施設のこと。

タ行

●ダイオキシン類

有機塩素化合物のうち、ポリ塩化ジベンゾ-パラ-ジオキシンを始め、これとよく似た毒性を有する物質をまとめた総称のこと。

●厨芥類【ちゅうかいりい】

主に家庭の台所、飲食店等から発生する野菜くず、食べ残し等の生ごみのこと。

●中間処理

廃棄物に焼却・溶融、破碎、選別等の処理を行うことにより、鉄、アルミ等を資源として回収するとともに、可能な限り体積及び重量を減らし、最終処分による環境負荷を小さくすること。

●低炭素社会

地球温暖化の原因となる二酸化炭素の排出が少ない社会のこと。

低炭素社会の実現に向けた具体的な手法として、省エネルギー、化石燃料から再生可能エネルギーへの転換、未利用地の緑化等が挙げられる。

ナ行

●熱回収（サーマルリサイクル）

廃棄物を焼却等の方法で処理する際に発生する熱エネルギーを回収して利用すること。

主な利用方法として、温水利用、発電利用等がある。

ハ行

●廃棄物系バイオマス

食品廃棄物、家畜排せつ物、建設発生木材、下水汚泥等のエネルギー源として再利用できる有機性廃棄物のこと。

●廃棄物処理法

「廃棄物の処理及び清掃に関する法律」の略称で、廃棄物の排出抑制及び処理の適正化により、生活環境の保全及び公衆衛生の向上を図ることを目的とした法律のこと。

●パブリックコメント手続

重要な計画等の意思決定過程において、市民等からの意見の提出機会を設け、多様な意見を把握するとともに、それに対する見解を公表することで、透明性の向上等を図ることを目的とした手続のこと。

●PFI法【ピーえふあいほう】

「民間資金等の活用による公共施設等の整備等の促進に関する法律」の略称のこと。

PFIとは、「プライベート (Private) ・ファイナンス (Finance) ・イニシアティブ (Initiative)」の略称で、公共施設等の建設、維持管理、運営等を民間の資金、経営能力及び技術的能力を活用して行う新しい手法のこと。

●プラスチック製容器包装

容器包装リサイクル法（「容器包装に係る分別収集及び再商品化の促進等に関する法律」）の対象となる商品を入れる「容器」及び商品を包む「包装」のこと。

例えば、プラスチック製のお菓子の袋、卵のパック、食品用のトレイ、家電製品の緩衝材等が挙げられる。

マ行

●マテリアルリサイクル

「再生利用（マテリアルリサイクル）」を参照のこと。

●メタル

廃棄物や焼却灰をガス化溶融炉や灰溶融炉で溶融処理した際に生成される溶融固化物のうち、磁性を持つ固化物のこと。

生成されたメタルは、建設機械のおもり（カウンターウェイト）等に利用することができる。

ヤ行

●溶融飛灰【ようゆうひばい】

廃棄物や焼却灰をガス化溶融炉や灰溶融炉で溶融処理した際に発生する排ガス中に含まれる固体の粒子状物質のこと。

排ガス処理設備内の集じん機等で捕集し、有害物質の溶出防止のため、薬剤処理、セメント固化等の処理を行う。

亜鉛、鉛、銅、カドミウム等の非鉄金属が含まれているため、資源化処理を行う場合もある。